

かんしょ

かんしょ病害防除共通事項

防除法のうち各種病害に共通な次の項目については、病害毎に記載することを省略する。
耐病性品種の選択、無病種いも・無病苗の選択、キュアリング貯蔵、窒素質肥料の適正施用、病株の除去、病いもの除去、発病苗床は翌年使用しないこと。

黒斑病 *Ceratocystis fimbriata*

I 防除の狙い 苗床および本圃に発生する。伝染は主として種いもや苗による。防除は健全な種いもを選ぶことと、伏せ込み前の種いも、植付前の苗の消毒が重要である。

II 防除法

1. 種いもの温湯消毒を行う。
方法：伏せ込み前、風呂桶または大釜の湯を47～48℃に調整し、種いもをかごに入れて、絶えず湯を攪拌しながら40分間浸漬する。
2. 切り苗の温湯消毒を行う。
方法：切り苗を束にして底の平らなかごに立てて並べ、苗の基部10～15cmを47～48℃の湯の中に15分間浸漬する。
3. 収穫時発病株は残し、健全ないもだけを収穫してから、り病いもを集めて処分する。
4. 薬剤消毒法

(1) 苗消毒

薬剤防除一覧表参照

(2) 種いも消毒

トップジンM水和剤の200～500倍液に20～30分間浸漬する。種いもは消毒後風乾して伏せ込む。消毒後の種いもは食用に供しないこと。

[注意] 黒斑病に対する品種抵抗性

強……農林1号、ベニオトメ

弱……農林2号、高系14号

紫紋羽病 *Helicobasidium mompa*

I 防除の狙い 土壤中に残存した菌核や罹病植物の根が伝染源となる。病原菌は非常に多くの作物を侵すが、イネ科植物には寄生しない。開墾地に発生が多い。

II 防除法

1. 深耕を行い、病原菌を大気にさらして死滅をはかる。
2. 発生地では、少なくとも2年間は夏作にイネ科植物を栽培する。
3. 発生地では早めに収穫する。
4. 薬剤散布

野菜・花き共通事項3の土壤消毒の項を参照

薬剤防除一覧表参照

サツマイモ基腐病 *Diaporthe destruens*

I 防除の狙い

1. はじめ、地際部の茎及び塊根の茎に近い部分が黒～暗褐色に腐敗する。被害が進行すると、茎の上部及び塊根全体に腐敗が拡がり、乾燥して硬くなり、やがて枯死する。見た目が健全であっても、収穫後の貯蔵中に発病する可能性がある。
2. 本病は発病したつるや塊根で伝染する。また、害虫の食害などによる傷により病原菌の侵入が助長される。なお、病原菌は植物残渣上で越冬し、翌年の伝染源になる。

II 防除法

1. 耕種的防除法

- (1) 発病した株は速やかに抜き取り、圃場や周辺に残さないよう適切に処分する。
- (2) 残渣等が感染源となるので、収穫後は圃場から速やかに取り除き、耕耘などを行って圃場内に残った残渣の分解を促進する。
- (3) 本病が発生した圃場で使った資材や機材を別圃場で使う場合は消毒や洗浄を十分に行う。
- (4) 本病の見られた圃場では、次作のかんしょ栽培を控え、輪作を行う。
- (5) 種芋は、健全な苗を育成するため、本病未発生圃場から採取する。
- (6) 種芋には腐敗や病害、傷のない健全な芋を使用する。
- (7) 苗床の土壤消毒を行う。
- (8) 苗は地際部から5cm以上切り上げて採苗し、採苗当日に苗を消毒する。
- (9) 植付前には、圃場の排水対策を十分行う。

2. 薬剤散布

薬剤防除一覧表参照

ナカジロシタバ

I 防除の狙い 年に4～5回発生。第1～2世代は少ないが、8月上旬～9月上旬の第3世代幼虫、9月上旬～10月中旬の第4世代幼虫は、生息密度が高まり被害も大きい。老齢幼虫は葉脈と葉柄を残して食害するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除する。

II 防除法

1. 薬剤散布

薬剤防除一覧表参照

エビガラスズメ

I 防除の狙い 年に3回発生。8月上旬から見られる第2世代幼虫は発生量が多い。特に、8月中下旬に現れる老齢幼虫は若～中齢幼虫に比べ摂食量のはるかに多いので、つると葉柄を残して食べつくし、最も大きな被害をもたらす。老齢幼虫になると防除が困難なので、早期発見に努め若齢幼虫期に防除する。

II 防除法

1. 薬剤散布

薬剤防除一覧表参照

ハスモンヨトウ

I 防除の狙い 盛夏期は少ないが、9月以降発生が増加する。幼虫は齢が進むと分散し、昼は作物の地際部や土のくぼみに潜むようになり防除が困難となるので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除する。

II 防除法

1. 薬剤散布

薬剤防除一覧表参照

イモキバガ (イモコガ)

I 防除の狙い 葉を巻いたり綴合わせて、表皮・葉脈を残して食害するので、葉は透けた様な状態になる。被害は5月初旬ごろから現れるが、著しくなるのは秋季で、盛夏期の被害は少ない。薬剤散布は発生初期に重点を置く。

II 防除法

1. 薬剤散布

薬剤防除一覧表参照

コガネムシ類

I 防除の狙い 数種いるが、ヒメコガネ、アカビロウドコガネが多い。ヒメコガネは6月下旬頃成虫が多くなり、7月上旬より産卵する。越冬するのは主に3齢幼虫である。秋季若齢幼虫の頃と、3月上旬頃（地温13～16℃以上）から活動を始め、根部を食害する。6～7月の成虫期の防除と植付時の薬剤の土壌施用による幼虫防除を実施する。

II 防除法

1. 薬剤散布

薬剤防除一覧表参照

ハリガネムシ類

I 防除の狙い かんしょに加害する主なものとしてはマルクビクシコメツキ、クシコメツキなどがある。幼虫は春・秋は地表近く、夏・冬は地中深く潜入している。4月頃より活動し、いもに針金を刺したような食痕をつくり、品質を低下させる。また、土壌病害の誘因ともなる。

II 防除法

1. 薬剤散布

薬剤防除一覧表参照

センチュウ類

I 防除の狙い サツマイモネコブセンチュウとミナミネグサレセンチュウがある。寄生範囲が非常に広く、多くの作物を加害する。品種により耐虫性が著しく異なる。被害の著しい場合は薬剤による積極的な防除を実施する。

II 防 除 法

1. 耐虫性品種の選択

	サツマイモネコブセンチュウ	ミナミネグサレセンチュウ
強	農林2号, ベニオトメ	高系14号
中		農林1号, ベニオトメ
弱	農林1号, 高系14号	農林2号

2. 薬剤散布

野菜・花き共通事項3の土壤消毒の項を参照

薬剤防除一覧表参照